

【第三回】「漢字(五体)の基本と書き方」
— 楷書② 古典の種類と唐の四大家 —

常葉大学教授
本誌編集委員 平形 精逸

◇はじめに
— 文明は文化を駆逐する —
先月は、教科書体にこだわるあまり、書写の規範字形に古典楷書の品位が損われる傾向を指摘しました。今月は、古典の種類や「唐の四大家」を比較します。



■「楷」の意味とは

「楷」を漢和辞典で引くと「手本、規範、法則」などの意とあります。楷書は一点一画を正式に書くことから「正書」とも「真書」とも呼ばれてきました。
「楷」とは落葉樹の名称で、「楷樹」は複葉が左右に整然と並び端正な姿をとどめていること

■楷書の発生

古くは、石碑類の波磔の消滅をもって楷書の起こりとする考え方がありましたが、近年では、西域地方から出土される簡牘(竹簡や木簡)の

から書体名に用いられています。もと孔子廟が置かれていた曲阜(現在の山東省)にあり、「学問の木、聖なる木」ともいわれています。(右の写真)

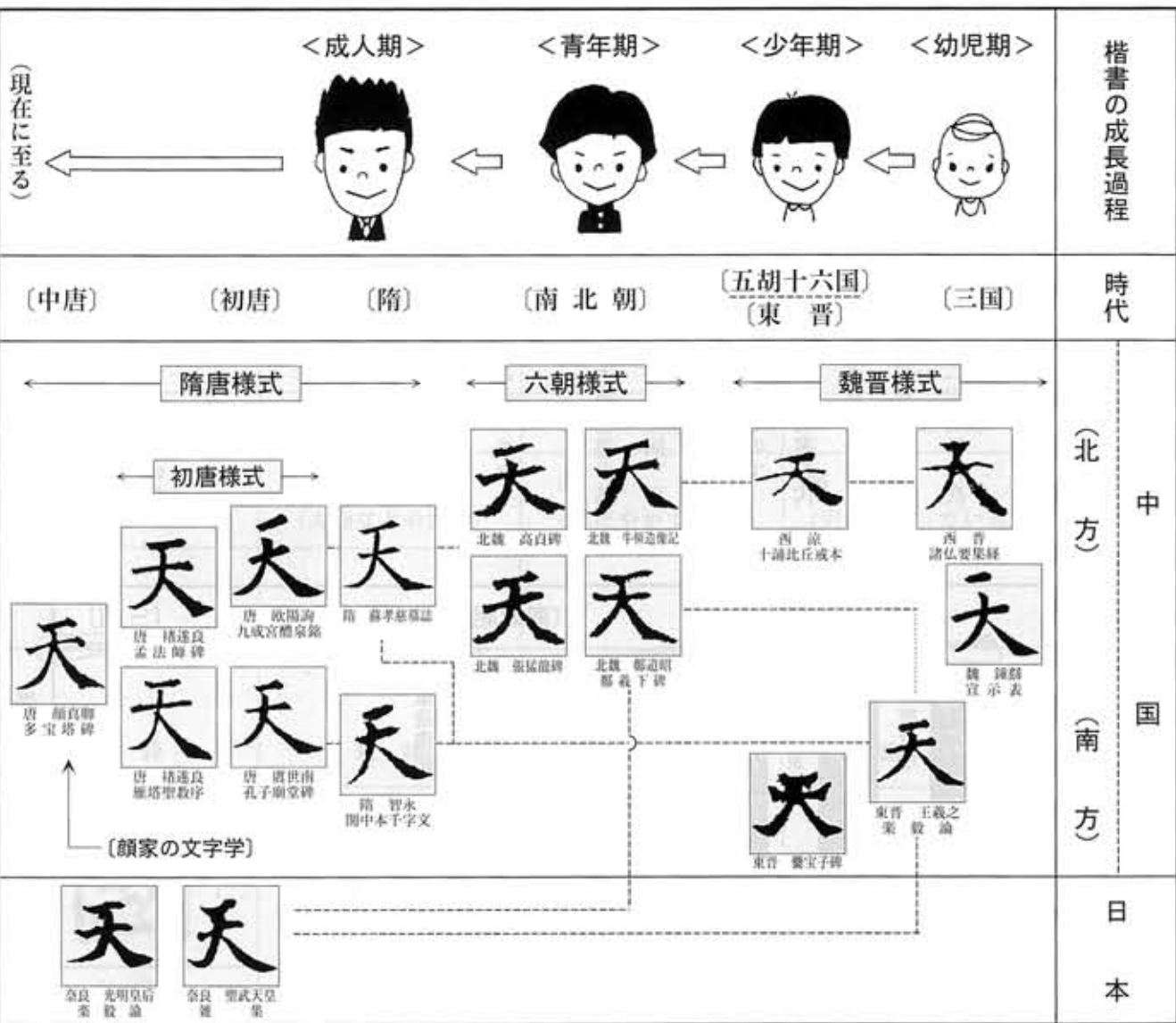


図1 楷書の変遷

■楷書の変遷

楷書が成立して以降完成に到るまで、上図のように、四つの成長過程が考えられます。まず、誕生してしばらくの間の「幼児期」にあたる三国・魏、西晋の書は、まだ骨格が弱いといえるでしょう。次の「少年期」は王羲之や、北魏書法のもとになった西涼・北涼の写経類で、骨法は定まるものの古朴であり、「幼児期」と合わせて「魏晉様式」と包括できます。「様式」とは表現形態・スタイルのことで、時代・地域・個性などに対応して使われます。次の「青年期」は、重心が低く粗野な感じのする北魏楷書の一群で、「六朝様式」といわれています。「六朝」とは南北朝時代の南方をさしますが、それは、清時代の康有為が北碑の書を激賞した「広藝舟双楫」を、大正時代に、わが国の中村不折が「六朝書道論」と名付けて翻訳したことが今でも生きています。南北を統一した隋、および唐時代に至って楷書はいよいよ「成人期」に入ります。「初唐様式」を含めて「隋唐様式」と呼ばれ、究極の書体として現在まで継承されています。

顔真卿	初唐の三大家			唐の四大家
	褚遂良	虞世南	欧陽詢	
709-785	596-658	558-638	557-641	生没年
				イメージ図
顔氏家廟碑	雁塔聖教序	孔子廟堂碑	九成宮醴泉銘	代表作
重厚 (肉太で迫力がある)	軽快 (太細などの変化)	温雅 (おだやかで上品)	厳正 (引きしまっている)	特徴
				用筆
蔵鋒	蔵鋒	露鋒	露鋒	
				構え方
向勢	向勢 + 背勢	向勢	背勢	

図3 唐の四大家の比較 (イラスト 橋本綾乃 『三才図会』など参考)

唐の太宗皇帝は文芸などを奨励して「貞観の治」と呼ばれる安定した時代を築きました。この時代に活躍したのが「初唐の三大家」で、それぞれ個性的な優れた書を残しました。欧陽詢は虞世南より一年先に生まれたので上図のように並んでいますが、代表作である「九成宮醴泉銘」(六三二年)より「孔子廟堂碑」の方が数年早く書かれたと推測できることから、作品順となると「孔子廟堂碑」の方が先に置かれます。共に必修の古典楷書の双璧をなすものです。二人に遅れて約三〇年後に生まれた褚遂良は、壮年期の「孟法師碑」より円熟期の「雁塔聖教序」の方が線に鋼線のような強さがあり有名です。政治家として名高い中唐の顔真卿は剛直の人として知られ、その書は篆書の書法をふまえた顔法によって新機軸を開きました。それらの書から受ける書き味(趣き)の違いを「書風」といいます。私たちは書の基本として唐の四大家を臨書し、それぞれの書風の違いを区別して表現できることが大切です。

■「唐の四大家」の比較

■楷書古典の重要作品

これらの古典の中で、書道史及び教育上の学習効果の点から、主要なものを選定してみました。

下図は、現行の高等学校芸術科書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの教科書(四社)と書道免許状取得用大学テキスト「書の古典と理論」(全国大学書道学会編、光村図書出版、二〇一三)に取り上げられている作品の頻度数を、高い順からまとめたものです。

中学校国語科書写との接続及び古典楷書の基本的性格から、初唐楷書が最上段の「五回」に並んでいるのが目立ちます。顔真卿の楷書も重要ですが、二つの古典に分散していますので一段下がってランクされています。北魏楷書を代表する方筆と円筆の二作品も並置され、楷書を学ぶ際の不可欠な古典であることがわかります。紙面の都合で割愛しましたが、「二回」には次の四古典があげられます。

「龔太子碑」(東晋)、「魏靈藏造像記」(北魏)、「元頤備墓誌銘」(同)、「真草千字文」(隋)。

(中唐)	(初唐)	(南北朝)	(奈良)	(東晋)	(三国)	
	福而長今妙 雁塔聖教序	始以武功壹 九成宮醴泉銘	大唐運齊九 孔子廟堂碑	伊昔桓武並 鄭義下碑	弥勒像一區 牛嶺造像記	最重要古典(五回)
孔歸君之曾 顔氏家廟碑	薄化於緩可蜀王 皇甫誕碑	為山伊始人 高貞碑	局蹟當時心於 同(光明皇后)	局蹟當時心於 同(光明皇后)	言臣自遭過 樂毅論(王羲之)	重要古典(四回)
踐行當四科 自書告身帖	觀夫太陽始旦 孟法師碑	南陽白象人地 張猛龍碑	玄流不遷 始平公造像記	古陽洞(造像記)		重要古典(三回)

図2 教科書などにみる楷書古典の掲載回数